

米国ワシントン大学・短期英語プログラム 留学報告書

釧路校 学校カリキュラム開発専攻 2年 森 駿介

私は、この春シアトルのワシントン大学へ約3週間の短期留学に行ってきました。日本の外に出ることはおろか一人で旅行すらしたことのない自分が、この大規模なプログラムへの参加を決めたことは、大学生活の中での非常に大きなターニングポイントとなりました。参加申し込みをした直後や、出発前などはやはり不安や恐怖感がとても大きかったのですが、いざ出国しプログラムが始まってみると3週間という時間は本当にあっという間で、それほど中身が濃く充実した学び多きものとなりました。

北海道から遠く離れたアメリカの地へ、まず飛行機を2本も乗り継ぎ12時間以上かけて移動したことからもうすでに未知のことだったのですが、着いてからはさらにもう新鮮なことばかりですべてのことが自分にとって新しく刺激に満ちた経験でした。20年生きてきて初めてアメリカ本土に足を下ろし、自分の目で、耳で知覚する日々は、驚きと興奮の連続となりました。空港に到着しバスでの移動中にすぐに思ったのは、道路から標識から建物から、あらゆる景色が日本とは異なっていて日本での「当たり前」や「ごく普通」はまったく見当たらないな、ということでした。この時に初めて、「本当に日本ではないところに来たんだな」という実感が湧いてきました。しかし、その後すぐに、この地で3週間の間ずっとお世話になるホストファミリーと対面した時は、緊張と不安でいっぱいになりました。自分自身、大学で一人暮らしを始めるまで、小中高と寮や下宿に入ったことなどもなくずっと親元で過ごしていたので、他人と一緒に生活するというのは初めてだったからです。ところが、私のそのような不安はまったく無用でした。こういった留学プログラム等で海外に渡ってくる学生を受け入れてくれるホストファミリーというのは、既に何度もそういった学生を受け入れてきている家庭が多く、どのファミリーも経験豊富でホームステイを受け入れることによく慣れた方たちばかりでした。そのため、非常に思いやりがあって思慮深く、親切丁寧に生活のことから学校のことまで説明してくれたり、困ったことがあればすぐに助けてくれるとても過ごしやすい環境を用意してくれます。なので、こうした生活環境や向こうでの暮らしに対して不安に思い、留学をためらっているような方は、そういった不安は捨てて無駄に構えることなく、ホームステイに挑戦してみたいと思います。ホームステイは、ホテルや寮での生活とは異なり、ホストファミリーや彼らの家族、近所、友人と関わる機会が格段に多く保障されているので、ネイティブの英語話者と会話をする機会もそれだけ多く持つことができます。食事の時間はもちろん、学校に行く前や帰ってきたあとも、その日の予定について話したり、今日あったことなどを話題に、自分の英語を積極的に使って、コミュニケーションを取ることができるので、今までインプットしていただけだった機械的な英語の学びを、急に、生きた学びに変えていくことができるのです。また、寮やホテル暮らしでは困ったことがあったり、ちょっと聞きたいことが出てきても、すぐにはその問題が解決できないことも多いかと思いますが、

ホームステイであれば、いつでも同じ家の中に親切なファミリーがいるので、気兼ねや遠慮なく助けを求めることができます。こういった点で、海外に留学を考えている方には、私はホームステイを強くおすすめします。最初は、戸惑うことやストレスに感じることも、ないとは言えないかもしれませんが、慣れてくると必ず実り多い時間を過ごせることと思います。

さて、ホームステイの話はここまでにして、次に、シアトルでの体験についてお話ししていこうと思います。まず、私たちが3週間学んだワシントン大学についてです。具体的に良さを挙げていこうとすると、この紙面では語り尽くせないほどたくさんの良さに溢れています。一言で言うなら大学生が自分の好きなことを学ぶのにこれ以上ない環境が整っている、と言えます。100年以上も昔から続く、歴史ある立派なキャンパスと穏やかで美しい自然に囲まれた構内から始まり、研究や実験に特化した最先端の施設がずらりと並び、大学構内全体では200以上の建物が集まっているとのこと。福利厚生施設も充実しており、学内だけでスターバックスコーヒーやサブウェイをはじめとした複数の飲食店やジム、購買や生協がところせましと立ち並びます。図書館に関しては、自分の大学の校舎より大きなものが10棟以上もあり、蔵書数も膨大で一生かかっても読み切れないほどの数の本が置かれていました。4年間または6年間、ここで学を深め、知性を磨くにはまさにこれ以上ない環境で、何一つ不自由のない大学生活が送れそうでした。このワシントン大学のキャンパスは、一目見るだけでも十分にその価値がある名所だと思います。さて、ようやく本題の大学の授業についてです。まず、ワシントン大学で春先に行われるこの短期英語プログラムは、そのときどきの参加者の数にもよりますが、たいいていレベルごとにおおまかに3つのクラスに分けられ授業が行われます。1つのクラスは、だいたい15~20人程度の非常にアットホームな雰囲気です。授業中の雰囲気もとても気持ちがよく、学びがはかどる環境といえます。というのも、どのクラスの先生も、非常に親身で、一つ一つの説明や指導を丁寧に行ってくれるからです。それに加え、1クラスの人数がそれほど多くないということもあり、生徒ひとりひとりにかけてくれる時間が多く、深く濃い指導をしてもらえます。特に、細かな発音や正確な文法に関しては、理解できるまで時間をかけて教えてくれます。わからないことや、聞きたいことがあったときにも、すぐに聞いたり詳しい説明を頼むことができる雰囲気です。つまづきがあるまま次へ次へと進んで行ってしまうことはありません。さらに、このプログラムは、北海道の異なるキャンパスから集まった教育大生だけではなく、本州の大学生や、韓国・中国などその他のアジア地域から学びに来る学生も参加しているので、授業内でのアクティビティや討論、話し合いを通して、国際的な交流を深めたり、国という枠を超えた意見交換をすることもできます。授業で取り扱う内容としては、テキストや紙面教材にとらわれた指導ではなく、ペアワークやグループワークを多用したアクティブラーニングが主流です。ライティングやリーディングというよりは、話すこと聞くことなど、コミュニケーションを図ることに焦点を当てた、会話する力を伸ばせる授業内容となっています。具体的

には、ファストフード店での注文の仕方を先生と学生で模擬体験してみたり、昨日のステイ先での出来事を紹介しあったり、実際に自分が表現したいことを英語で話す練習が、繰り返し繰り返し出来ます。他には、チップの払い方について学んだり、洋画を見たりして、アメリカの文化についても授業の中で見識を広めていくことができます。もちろん、授業内で使う言葉は、先生も私たち生徒も、オールイングリッシュなので、授業中は英語を使う感覚を集中的に養うことができますようになっていきます。

クラスルームでの授業は、朝の9時半からお昼の12時半までで、午後からはシアトルの様々な観光スポットへフィールドトリップに出かけます。毎週、火曜日と木曜日はプログラム公式の決められたアクティビティで、大学の親切で話の面白いスタッフの方たちがシアトル中の有数の観光スポットへ連れて行ってしてくれます。このアクティビティの時間は、3つに分けられているクラスすべてが参加し、一緒に行動するので他のクラスの人たちとも交流したり仲を深めることができます。火曜木曜以外の午後は、フリーなので仲のいい友達と一緒にだったり、自分ひとりで好きなように時間を使うことができます。私は特に、こういった午後の時間は、クラスルーム以外の立派な建物を見て回ったり、大きな図書館を利用してみたいと思いました。大学内だけでも十分すぎるほどに、入ってみる価値のある施設や中庭があるので最初のキャンパスツアーだけでは回り切れなかった場所や建物に入ってみたり利用してみるのには、もってこいの時間です。他には、市内の大きな博物館や美術館を訪れたり、ランドマークのタワーやビーチに足を運んだり、ダウンタウンに買い物に行ったりと、本当に自由にさまざまなことができます。午前中にクラスルームで英語を学ぶのもとてもいい勉強になりますが、午後のこうした自由な時間に、買い物をしたり、観光スポットに行ったりして、現地の人と生きた英語を使って言葉を交わすのも、教室の椅子に座っているだけでは決して体験することのできない、貴重な時間になります。

これからこのプログラムに参加してみようという人には、この午後のフリーな時間の使い方を充実させることを一番強くおすすめしたいです。自分で行きたいところを決め、その手段や方法も自分の力でプランニングし、実際に行動してみる。その中で、思わぬトラブルに巻き込まれたり問題に直面することがあれば、それはそれで本当にいい経験になります。私自身がそういうことの連続でした。日本とは何もかも勝手が違う不慣れた環境で、いろいろわからないながらも積極的に行動してみる、というのは何にも代えがたい経験だと痛感しました。本当の意味で、自分の世界が広がり始めます。自分の身に危険が及ばないことと、他人に迷惑をかけない範囲であれば、本当にいろんなことに挑戦してみたいと思います。その中で上手くいかないことや、失敗に直面して初めて本当の学びに出会えるはずです。自分で考えて自分で起こした行動というのは、人から聞いた話や他人に任せて行動するのと違って、決して忘れて記憶が曖昧になる、とういことはありません。強く、そして鮮明な記憶となって自分の頭の中に残り続けます。そういう意味で、このプログラムが提供してくれる、自分の築いてきた日本での経験が通用しない3週間は、生涯忘れることのない、刺激に満ちた時間になります。

ひとたびこのプログラムに参加して、無事に日本に帰って来ることさえできれば、この経験は、マイナスになることは本当にひとつもありません。すべてが、自分の成長への糧となって自分に返ってくるはずです。このプログラムに限ったことではありませんが、留学に少しでも興味のある方は、ためらっては本当に損です。私もその一人でしたが、今回の経験で痛感しました。自分の価値観や経験が、思うようには通じない場所で過ごす時間は、きっと自分の人生の中の大きな転換点になりますよ。



シアトルの名観光スポット・パイプレイスマーケット



シアトルはコーヒーの街。名実ともに No.1 のコーヒーチェーン・スターバックスの1号店店内で撮影。



ワシントン大学の中庭はこの時期、ちょうど桜が満開になります。クラス全員と担任の先生の集合写真。